Interview #03

*2024年3月インタビュー

2023年3月所属：生命農学研究科 植物生産科学専攻 園芸科学研究室（卓越大学院プログラムGTR）
2023年度所属：卓越大学院プログラムGTRの教職員（研究員）
2024年4月所属：株式会社 豊田中央研究所

生命農学研究科　川口　航平　さん

大学院で行った研究の概要を教えてください

修士課程ではゲノム編集技術を用いて、トマトの甘くならない遺伝子を破壊して甘い果実を作る研究をしていました。博士課程では、接ぎ木に関わる色々な成分（植物ホルモン、代謝物、無機イオン）を探索し、それらがどのように接ぎ木の成立に関与するかを解明する研究をしていました。

この春からはどういう仕事をする予定ですか？

まず、バイオ系博士が少ないため、指導教員を通じてポスドク・企業等、複数の声がかかりました。学位取得がある程度決まってから、自分の中での「就活の軸」を見つめ直した結果、豊田中研がベストだと考えました。2年前に植物系研究者のメーリングリストで豊田中研での研究員採用が募集されていたことを思い出し、ダメもとでメールをお送りしたところ、社内を見学する機会を頂きました。その年は正式にはバイオ系の新入社員の募集はなかったのですが、許可を得たうえで新卒採用のエントリーシートを提出し、2回の面接後、1か月ほどで内定をいただきました。

在学中に経験してよかったことは？

「企業と博士の交流会」はとても良い経験でした。研究者へのプレゼンと企業へのプレゼンは内容や言葉選びも全然違うことを学び、就活にも活かせました。また、ありがたいことにベストポスター賞を頂いたこともあり、懇親会で会社の方に声をかけて頂いたり、個別にメールを頂いたりしました。研究室以外での関わりを持ち、自分の視野や経験を広げられたので、非常にためになるありがたい機会でした。

就職活動で評価されたと思うことはありますか？

園芸作物を専門的に扱える人やゲノム編集技術を扱える人がいなかったため、その専門性を評価されたのがひとつだと考えています。また、工学系の研究者が多い会社なので、分野外を理解し、それを自身の分野に活用できる可能性を模索するといったインプットと、分野外の人に自身の専門性をわかりやすく伝えるといったアウトプットの両者で、異分野の研究者と協調していく力も評価されたと感じています。

後輩へエールをお願いします！

バイオ系博士にはネガティブなイメージ（就職できない、給料が良くない）がありますが、実際は私の周りでキャリアに困ってる博士はおらず、自分の志望したキャリアを自由に選んでいたという記憶があるので、やりたいことを仕事にするための近道は、実は博士なのではないかとも思います。実際、私が学部生で就活したときは30社以上にエントリーしましたが、その多くがエントリーシートで落とされてしまうといった経験がありましたが、博士の就活では、数社に絞って自分が選べる状態だったので、精神的にもとても良かったです。
数多くのイベント（セミナー、研修など）の情報が溢れている社会の中で、自分に必要なものを取捨選択することが大事だと思います。私の場合、その取捨選択の基準は、それらが「ワクワクするかどうか」だったかもしれません。ひたすらタスクが増える昨今の学生さんは、誰もが皆、非常に忙しいことは重々承知していますが、その中でどのように「自分の色」を出して、他の学生さんや博士人材と差別化するかが重要になると思います。博士の学生さんにとって、実験・研究は必要最低限のタスクなので、それに＋αでどんな活動をするのかが、「自分の色」を出す秘訣なのではないでしょうか？
大学や博士課程教育推進機構が主催するイベントのみならず、アルバイトやボランティアなどを含めた「学生じゃないとできない経験」は、どんなことに自分が興味を持ち、何が自分にとって重要なのかを自己分析する機会として非常に良いと思います。慌てすぎずに多様な経験を積んでおくのがおススメです！